

『第3回 うつくしま眼科研究会』のご案内

謹啓 時下先生におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、下記の要領にて
「第3回うつくしま眼科研究会」を開催させて頂く運びとなりました。つきましては、
ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご臨席賜りますよう、ご案内申し上げます。

日時：2018年8月4日（土）18:00～20:00

会場：ホテル ハマツ （2F 開成の間）

福島県郡山市虎丸町3番18号

TEL:024-935-1111

会費：1,000円

座長 福島県立医科大学医学部眼科学講座 教授 石龍 鉄樹 先生

【特別講演Ⅰ】

『Patient based medicine 角膜・白内障編』

演者：宮田眼科病院

院長 宮田 和典 先生

【特別講演Ⅱ】

『病態から考える加齢黄斑変性の最適治療』

演者：琉球大学 大学院医学研究科 医学専攻眼科学講座

教授 古泉 英貴 先生

※本講演会は、専門医制度認定事業2単位を申請中です。

※講演会終了後、情報交換会を開催いたします。

共催：うつくしま眼科研究会

千寿製薬株式会社

後援：福島県眼科医会

『第3回 うつくしま眼科研究会』

『Patient based medicine 角膜・白内障編』

宮田眼科病院 院長 宮田 和典

宮田眼科病院は、南九州の鹿児島県と宮崎県の県境にある。この地域は、温暖な気候で、主たる産業は、農業、酪農、漁業、自然に恵まれ、屋外労働者が多い。人種のルーツは、琉球民族、隼人族などが混在している。眼科の疾患分布も、それら環境の影響を色濃く受けている。例えば、ぶどう膜炎は、全国的に多い原田氏病、ベーチェット病、サルコイドーシスをおさえて、HTLV1ぶどう膜炎が最も多い。また、トキソプラズマの症例が多く見られるのも特徴的である。これは、この地域の食生活を反映していると考えられる。屋外労働者が多いため、翼状片の症例も多く見られ、かつ治療抵抗性である。眼球の形状の特徴としては、狭隅角眼が多い。この地域の住人は、おそらく多治見市よりも、久米島に近い人種なのであろう。そのため、過去に緑内障発作の既往や、予防的Lが行われた症例が多く、水疱性角膜症の発症原因の多くを占める。当院では、角膜内皮障害の内科的治療としては、ステロイド点眼の有効性、クロスリンクング、外科的治療としては、PKP、DSAEK、人工角膜Boston Kproを行っている。また、角膜感染症は、年100例を超える症例を経験しており、2008年以降、感染症サーベイランスを続けている。起炎菌の解析結果から、*S.epidermidis*のLVFX耐性化は、経年的に増加していることがわかった。角膜感染症は、原則として、常在菌が起炎菌となることを考慮すると、結膜嚢内常在菌の耐性化が進行していることを示している。この耐性化の進行は、抗菌薬の過剰使用のためと考えられる。感染症に対する抗菌薬の使用は致し方ないが、周術期の抗菌薬使用は再考する必要がある。そこで、眼科手術の中で、最も件数の多い白内障手術の周術期における抗菌薬の結膜嚢内常在菌叢への影響を検証し、また、抗菌薬の使用期間の常在菌叢に対する影響を検討した。

今回の講演では、目の前の患者を分析し、問題点を見出し、その解決法をさぐり、再び目の前の患者へフィードバックするPatient based medicine、角膜・白内障編をお話したい。

『病態から考える加齢黄斑変性の最適治療』

琉球大学 大学院医学研究科 医学専攻眼科学講座 古泉 英貴

加齢黄斑変性(AMD)の診療は抗血管内皮増殖因子(VEGF)薬の登場により視力維持から視力改善を目指す時代へと進化した。現在複数の抗VEGF薬が使用可能となり、光線力学的療法も含めた治療戦略が模索されている。演者は光干渉断層計や眼底自発蛍光撮影などの非侵襲的眼底イメージングから得られた知見を如何に最適治療に展開するか、また治療を通じて得られた知見から如何に病態を理解していくかを考えながら、日々診療に取り組んでいる。本講演では演者が長年取り組んできたAMDの病態と治療に関する最新の知見を御紹介し、今後のAMD診療の展望につきお話させて頂く予定である。